

平成26年9月 マンスリー レポート

集計企業数 **60** 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	53,078,205 万円	100.0%	103.3% (104.7%)	50,968,546 万円	100.7% (101.9%)
食 料 品	45,391,977 万円	85.5% (85.1%)	103.9% (105.7%)	43,491,100 万円	101.0% (102.5%)
農 産	7,233,952 万円	13.6% (12.8%)	106.7% (106.1%)	6,934,672 万円	103.7% (103.2%)
水 産	4,374,283 万円	8.2% (8.2%)	106.2% (108.9%)	4,189,130 万円	103.0% (105.6%)
畜 産	5,482,292 万円	10.3% (10.0%)	110.1% (115.2%)	5,235,623 万円	106.7% (111.6%)
惣 菜	5,063,397 万円	9.6% (10.0%)	106.2% (107.7%)	4,824,797 万円	102.7% (104.0%)
日配食品	10,192,065 万円	19.2% (18.7%)	102.5% (104.6%)	9,773,108 万円	99.8% (101.4%)
加工食品	13,045,988 万円	24.6% (25.4%)	99.6% (101.2%)	12,533,770 万円	97.0% (98.3%)
生活関連	3,335,151 万円	6.3% (6.5%)	99.7% (100.5%)	3,248,267 万円	98.6% (99.2%)
衣 料 品	1,437,180 万円	2.7% (2.7%)	98.7% (96.3%)	1,416,499 万円	99.0% (96.8%)
そ の 他	2,913,897 万円	5.5% (5.7%)	100.1% (100.4%)	2,812,680 万円	99.2% (99.7%)

② 数 値

全店総売上高	53,078,205 万円	店 舗 数	4,725 店舗
総売場面積	9,234,335.1 m ²	総従業員数	254,521 人

店舗平均月商	11,233.5 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,789.5 円 (100.8%)
月間m ² 売上(前月)	5.7 万円 (6.3 万円)	平均店舗面積	1,954.4 m ²
月間坪売上(前月)	19.0 万円 (20.7 万円)	パート比率(前月)	77.8% (78.0%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 9月は昨年に比べ日曜日が1日少ないものの、残暑もなく比較的過ごし易い気候で推移。そのため秋の味覚の早期取組みに注力。
- ・ 一方で先月の長雨、日照不足により野菜、果物の市場に影響が出ており、品質が今ひとつのなかで相場高が継続。
- ・ 畜産は相変わらずの相場高のなか、為替の影響もあり一部で輸入牛の単価上昇も見られた。

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 先月の台風、豪雨などの天候不順によりレタス、胡瓜などを中心として品質が安定しないなか相場高で推移。
- ・ その反動もありカット野菜が好調。
- ・ 残暑がなく気温も低い日が続いたためシチュー関連のブロッコリー、南瓜、玉ねぎなどを早期に拡販した。

○ 水産

- ・ 新さんまが量、価格とも安定的に供給されたことから売上を大きく伸ばすなど好調。
- ・ 輸入サーモンは相場高が続くなかでも数量維持。

○ 畜産

- ・ 豚肉の薄切り、しゃぶしゃぶ用が好調。
- ・ 上品質の和牛モモステーキ、サーロインステーキ、ランプステーキなどにも支持。
- ・ 鶏肉は鍋商材であるモモ肉、から揚げ用などを中心に売上伸長。

○ 惣菜

- ・ 気温が低いこともあり、かきフライ、HOT麺類、グラタンなどを前倒しで販売、レンジ商品とも併せて好調に推移。
- ・ お彼岸のおはぎも比較的好調。

○ 日配・加工食品

- ・天候の関係から昨年に比べ飲料、ビール、乾麺などが不調。逆におでん商材は好調。
- ・米も相場安で売上低調。
- ・野菜の相場高から凍菜、漬物などの動きが良好。
- ・バター、チーズは不足与件で好調維持。
- ・水産缶詰めもメディア効果が継続。

○ 「敬老の日」について

- ・おもてなしメニューとして、手巻き寿司、すき焼きなど、ちょっとしたご馳走が好調。
- ・お月見からお彼岸まで芋関係の和菓子を拡販。
- ・また祖父母が孫に買ってあげる気持ちを盛り上げるような提案やアクティブシニア層をターゲットにした企画など創意工夫が見られた。

○ 「上期（4月～9月）の概況」について

- ・台風、豪雨、火山の噴火のなか、西日本では11年ぶりの冷夏で太平洋側では日照時間も観測史上最少になるなど異常気象が続いた。
- ・4月からの消費税率のアップ（5%→8%）に関する価格表示（本体価格）については、お客様も慣れてこられたようで問い合わせはなくなった。
- ・名目賃金はアップしているものの、実質賃金指数はマイナスが継続。
- ・そのようななか、消費は団塊の世代などを中心とする富裕層による高級商品と子育て世代などを中心とする低価格指向の二極化も散見される。

以 上